

令和2年度 雀宮南小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む） ※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

(1) 基本目標

「人間尊重の教育」を基盤として、地域の特性や児童の実態を踏まえ、社会の変化に主体的に対応できる知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい南の子の育成に努める。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など） 南の子 なかよく かしこく たくましく

○なかよく……なかよく助け合い きまりを守る子(思いやり・規範意識・人権意識)

○かしこく……進んで学びよく考え自分の言葉で表現できる子(自主性・創意・コミュニケーション力)

○たくましく……明るく元気に粘り強くやり遂げる子(明朗・勤労・耐性・自己肯定感)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

小学校は、子どもの夢を育てていく場所であり、多様な経験を通して学んでいく場所である。個の成長を認めることを基本とし、教育活動の充実・改善を通して、一人一人が自分の成長を実感し自己肯定感をもてる学校づくりを進めていく。そのためには、教職員が互いに教師力を磨き合い、それぞれの専門性や個性を発揮しながら、明るく笑顔で教育活動を推進していくとともに、地域・保護者・児童・教職員が心一つにして、「笑顔いっぱい あいさついっぱい やる気あふれる南小」を目指して努力していく。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画及び第2次宇都宮市学校教育スタンダード、令和2年度指導の重点を踏まえ、児童・教員・保護者・地域それぞれが互いに響き合う学校の経営に努める。

- (1)児童一人一人が自分のよさを発揮し、学校生活への充実感や自己肯定感を感じることでできる学校づくりに努める。
- (2)基礎的・基本的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育み、主体的に学習に取り組む態度を育てることに努める。
- (3)教育活動全体を通して、計画的・系統的に人権を尊重する心、人を思いやる心などを育むとともに、折れない心や、やり抜く心など心のたくましさの涵養に努める。
- (4)生涯にわたって自他の生命を尊重し健康で安全な生活を送れるよう、自ら進んで体力づくりや望ましい生活習慣、危険を予測し回避する行動を身に付ける力の育成に努める。
- (5)教職員が同僚性と協働性、各々の良さを発揮し、組織的、計画的な教育活動の推進に努める。
- (6)教育者としての使命感を自覚し、研究・研修、日常の相互研鑽等を通して、人権意識の高揚と指導力の向上に努める。
- (7)教職員一人一人のモチベーションやメンタルヘルスを保持しながら、最大限の力を発揮できるように業務の改善と勤務時間を意識した働き方改革を推進する。
- (8)地域と連携・協働した学校づくりを推進する。
- (9)地域学校園の連携を図り、児童生徒・教職員の特徴・良さを生かした教育活動を推進する。

【雀宮地域学校園教育ビジョン】一人一人が自らの良さを自覚し、主体的に学ぶ児童生徒の育成
～いきいきとした活動を通して～

4 教育課程編成の方針

- (1)児童が明るく楽しく生き生きと取り組める特色ある学校づくりを目指し、異学年間交流活動や教師と児童による主体的活動の推進と、地域外部人材を活用した意図的・計画的な実践化を図る教育課程の編成に努める。
- (2)言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や豊かな人生の実現や災害等乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点で育成していく教育課程の編成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- 児童一人一人がよさを発揮し、学校生活への充実感や自己肯定感を感じる教育活動の展開
- 認め励ます教育の一層の推進
 - ・道徳教育・人権教育の充実を通じた、豊かな人間性と他者を思いやる力の育成
 - ・地域と目標を共有し、地域の教育力を生かした特色ある教育活動の展開
 - ・業務を効率化し時間的な余裕の中で質の高い教育活動を展開するための環境の整備と教職員の意識改革

【学習指導】

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
- ・学習の基盤となる資質・能力の明確化と教科等横断的な指導の充実
- ・まとめ学習の充実と自ら計画する家庭学習の習慣化
- ・安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学級集団づくり
- ・学校行事や特別活動などで自分の変容や成長を実感できる学習活動の工夫（キャリア教育の充実）
- ・図書、ICTの活用能力を向上させる指導の充実
- ・家庭での読書習慣の形成

<p>【児童生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ルールやマナーがあるよさを実感し、進んで守ろうとする態度の育成 ○ 相手の気持ちを考えて行動する実践力（あいさつ・場に応じた言葉遣い等）の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ・不登校を生まない指導と居がいのある学級づくり <p>【健康（体力・保健・食・安全）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 健康で安全な生活を営む力を育むとともに、進んで運動に取り組む児童の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で決めた目標に継続的に粘り強く取り組むことができる児童の育成 ・ 危険を予測し、自らの命を守るための行動力の育成 ・ 自らの食生活を振り返り、望ましい食習慣の形成に向けて自ら改めようとする態度の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童	<p>A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。→児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学習のめあてと振り返りの時間を授業の展開に位置付けノート指導を充実させる。</p> <p>② 主体的に取り組めるような授業の展開を図る。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の肯定的回答は 92.3%で指標を上回った。学習のめあてを確認したり振り返りをしたりする時間を意識的にとったことの成果である。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノートコンクールの実施を継続し、ノート指導の充実を図る。 ・ 主体的に取り組めるよう、学習のめあてや活動内容を子供たちと一緒に考え、組み立てる授業展開を実施する。
	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。→児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 道徳や学級活動などの授業を通して、思いやりの心を育み、縦割り班活動等で実践できるようにする。</p> <p>② 縦割り班活動に、その日の振り返りの時間を設け、それぞれの良かった点を発表し合う。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の肯定的回答は 88.5%で指標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が思いやりの心をもてるような取組を継続する。 ・ 学級内で思いやりのある行動をした児童を取り上げてほめる。
	<p>A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。→児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 「みんなでがんばる3つのめあて」「よい子の一日（きまり）」「遊びのきまり」や生活目標の周知徹底を図ることで、規範意識を高め、けじめのある行動がとれるようにする。</p> <p>② 人権教育や道徳の授業、運動会・全校遠足等の学校行事の活動を通して、集団の一員としての自覚を高めていく。</p>	A	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の肯定的回答は 86.5%、保護者は 88.4%で児童・保護者とも指標を上回った。しかし、教職員の肯定的回答は、12ポイント減少し 88.0%であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「よい子の一日（きまり）」を定着させる方法を工夫し、生活目標について、振り返る機会を定期的に設ける。 ・ 生活目標の周知方法を工夫することで規範意識を高める。 ・ 公徳心・公共のマナーなどについて、道徳教育や人権教育を通じて、指導の充実を図る。 ・ 児童会活動の充実を図る。

<p>の 姿</p>	<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。→保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 児童・地域・保護者が協力し合い、朝のあいさつ運動を定期的（6月・10月）に行う。また、代表委員会やボランティアによるあいさつ運動を行い、児童の意識を高める。 ② あいさつ運動の期間に、道徳や特別活動の時間で礼儀の授業を行い、児童の意識を高める。 ③ あいさつ週間の期間等に、学年だよりや振り返りカードなどで、家庭でも進んであいさつをする習慣をつけるように呼び掛ける。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答 87.8%、保護者は昨年度より 2.5 ポイント減少して 77.6%であり指標を下回った。さらに、教職員は昨年度より 18 ポイント減少して 68.0%であった。 【次年度の方針】 ・登下校時に地域の方や教職員に児童自らあいさつができるよう指導する。 ・ボランティア募集や各学級単位での啓発など、あいさつ運動の内容を検討する。 ・新年度の登校班編成の際に、班長にあいさつの指導をする。 ・校舎内においても、教職員や学校に来られた方々に対して、自ら会釈やあいさつができるように機会を捉えて指導する。 ・意欲付けの方法を工夫する。</p>
	<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。→児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 自分で決めた目標に継続的に粘り強く取り組むことができるよう指導する。 ② キャリアパスポートを活用し、自分のよさや適性、将来の生き方を考えさせるとともに、身のまわりの仕事について調査するなど、自分や他者の生き方に関心をもたせる取組をする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 83.7%で指標を上回った。 【次年度の方針】 ・道徳・総合・学級活動でのキャリア教育の充実を図る。 ・キャリアパスポートを活用し、学校行事などで目標に向かって取り組んだことを振り返るようにする。</p>
	<p>A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。→児童・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 「交通安全教室」「避難訓練」「防犯訓練」等を定期的実施し、日常生活の中で考えられる危険やその対策について体験的に気付かせる。 ② 親子レクレーション等を家庭に紹介し、強調月間を設けて、家庭での運動の習慣化を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 92.8%で、指標を上回っており、保護者は 91.1%であった。避難訓練など、体験的に気付かせたことが効果的であった。 【次年度の方針】 ・登下校のルールやマナーについて指導を継続するとともに、児童の安全意識を高め、危機回避能力を身に付けさせるため、様々な場面を想定した避難訓練を実施する。</p>
	<p>A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 児童は、夢や目標に向かって社会に貢献できるよう努力している。→児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 自分で決めた目標に継続的に粘り強く取り組むことができるよう指導する。 ② キャリアパスポートを活用し、自分のよさや適性、将来の生き方を考えさせるとともに、身のまわりの仕事について調査するなど、自分や他者の生き方に関心をもたせる取組をする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 83.9%で指標を上回った。 【次年度の方針】 ・道徳・総合・学級活動でのキャリア教育の充実を図る。 ・キャリアパスポートを活用し、学校行事などで目標に向かって取り組んだことを振り返るようにする。</p>
	<p>A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。→教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 英語を使ったコミュニケーションを行う目的や場面を理解させるとともに、コミュニケーションできる場面の設定を工夫する。 ② ALTと連携を図りながら、コミュニケーションできる場面を多く設定する。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 ・教職員は 88%であり指標は上回っているが、昨年度より 12 ポイント下がった。 【次年度の方針】 ・ALTと連携し、コミュニケーションの場面を多く設定する。 ・授業中に T1 と T2 が会話をする場面を増やす。</p>

	<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 私は、宇都宮の良さを知っている。→児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 宇都宮における人・自然・社会などについて調査することにより、興味・関心をもてる取組を工夫する。 ② 副読本や図書資料、教育機器等を活用して宇都宮について調べ学習できる場の設定を工夫する。</p>	A	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 69.9%で指標を大きく下回った。 【次年度の方針】 ・地域の教育資源や教育機関を有効活用することにより児童の宇都宮に対する理解を深める。 ・副読本や図書資料を活用し、折に触れて宇都宮のよさを教師や図書委員会から発信する。</p>
	<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。→教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① ICT機器や図書館等における設備の充実を図るとともに、それらを活用したわかる授業を展開する。 ② ICT機器や図書等を工夫して活用することにより、授業の改善を推進する。</p>	A	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 88%で指標を上回ったが、保護者は 58.5%、児童は 79.8%であり、教職員との差が大きかった。 【次年度の方針】 ・学校ホームページや各種便りで ICT 機器を活用している学習活動の様子を積極的に家庭に発信する。また、授業参観で ICT 機器を活用した授業を行う。</p>
	<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 児童は、高齢者に対して、感謝やいたわりの心をもって優しく接している。→児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 道徳や学級活動などの授業を通して、思いやりの心を育み、縦割り班活動等で実践できるようにする。 ② 縦割り班活動に、その日の振り返りの時間を設け、それぞれの良かった点を発表し合う。 ③ 感謝の会などの学校行事等を通して、感謝の心を表すとともに、温かい人間関係を育む活動をする。</p>	B	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 88.5%で指標を上回った。 【次年度の方針】 ・児童が思いやりの心をもてるような取組を継続する。 ・学級内で思いやりのある行動をした児童を取り上げてほめる。</p>
	<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。→教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① リサイクル活動や「もったいないカレンダー」の活用や図書の活用を通して、「環境を大切に考えること」や「これからも続く」という考え方を理解する場を設定する。</p>	B	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 84.2%で、昨年と比較して 1.7 ポイント上回った。教職員は 48%で指標を大きく下回った。 【次年度の方針】 「持続可能な社会」について、指導者自身が理解を深め、授業（4年環境出前講座等）や具体的な活動（古紙再利用等）を通して児童に伝える。</p>
	<p>B1 本に親しみ、進んで見聞と視野を広げようとしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、進んで本を読んでいる」→児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① いろいろな分類の本を読めるように読書カードを工夫する。 ② 読み聞かせボランティアを活用し読書活動を充実させる。 ③ 「ぜひ読み」を家庭へ知らせ、読書に親しむ環境づくりをする。 ④ 市立図書館との連携等で積極的に学習に必要な本を収集し情報センターとしての機能を強化する。</p>	A	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 70.2%で指標を下回っている。 【次年度の方針】 ・図書館の利用時間を増やす工夫をする。 ・読み聞かせの時間の回数を含め、実施方法を検討する。</p>
目指す学校	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員は、特別な支援を必要とする児童に対して、適切な支援をしている。→教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 児童指導に係る研修や校内支援委員会を活用して情報収集・情報共有・共通理解を図る。 ② 教育相談やQ-Uなどを活用して児童理解を図るとともに、自己肯定感をもてる学級経営やわかる授業を展開する。</p>	B	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は昨年度より8ポイント減少して 92.0%であったが、指標を上回った。校内支援委員会など有効活用することができた。 【次年度の方針】 ・計画的な校内支援委員会や児童指導に係る研修を実施する。 ・クラスや学年、職種を超えて連携して指導にあたる。 ・Q-Uや各種アンケート結果を活用し、児童が自己肯定感をもてる学級経営や授業の工夫をする。</p>

の姿	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。→保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① いじめ防止基本方針に基づき、いじめアンケートや教育相談等を活用して、いじめの未然防止・早期発見・早期対処を図る。</p> <p>② 教育活動のあらゆる場面を通して、児童の人権感覚を育み、いじめが許されない行為であることを指導する。</p> <p>③ 学年便りの工夫や懇談会で伝えたり、児童指導関係の文書を作成したりする。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 97.2%、保護者は 83.7%で昨年度より 3.1 ポイント増加した。しかし、指標より下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・いじめ防止に関する学校の取組を保護者に周知する。 ・学年だよりの工夫や懇談会でいじめゼロスローガンを発表したムービーを流したり、児童指導関係の文書を作成したりする。</p>
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。→児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 児童指導に係る校内研修などから、情報収集・情報共有・共通理解を図るとともに、早期発見・早期対処を図る。</p> <p>② 不登校とまらないための魅力ある学校づくりを進めるとともに、不登校児童に対するきめ細かく柔軟な対応を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 97.4%で指標を大きく上回った。また、保護者は 91.1%で昨年度より 3.9 ポイント増加した。 ・不登校対策や不登校傾向にある児童へのきめ細かな指導が効果的であった。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童が自己肯定感を高めたり、居がいを感ぜたりできる学級づくりをする。 ・よりよい人間関係を構築できるようデータ等を有効に活用する。</p>
	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員は、外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。→教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 児童指導に係る研修や校内支援委員会を活用して情報収集・情報共有・共通理解を図る。</p> <p>② 教育相談やQ-Uなどを活用して児童理解を図るとともに、自己肯定感をもてる学級経営やわかる授業を展開する。</p> <p>③ 週1回の打合せにおいて、必要に応じて児童指導に係る情報交換をして共通理解を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は昨年度より 8 ポイント減少して 92.0%であったが、指標を上回った。教育相談などを活用して児童理解を図るとともに自己肯定感をもてる実践があった。</p> <p>【次年度の方針】 ・道徳教育を通して、自国や他国の文化を尊重する心を育てる。 ・計画的な校内支援委員会や児童指導に係る研修を実施する。 ・クラスや学年、職種を超えて連携して指導にあたる。 ・Q-Uや各種アンケート結果を活用し、児童が自己肯定感をもてる学級経営や授業の工夫をする。</p>
	<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 私は、今の学校が好きです。→児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 異年齢間の交流活動の縦割り班に積極的に取り組み、児童主体の活動を展開していく。活動を通して、児童・教職員間の信頼関係や仲間意識を高める。</p> <p>② 教職員間のコミュニケーションや意見交換を活発に行い、共通理解のもと協力して取り組む。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 87%と指標を 2 ポイント上回った。保護者は 90.4%、地域住民は 100%だった。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、児童が活躍できる場を設定することで、居がいのある学校づくりを推進する。具体的には、学年・学級活動やいきいき活動などの児童会活動の内容に改善を図ったり、1・2年の生活科における異学年交流を推進したりすることで、主体的に活動する児童の育成を図っていく。</p>
	<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。→児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 一人一人の興味・関心や能力を的確に把握し、体験的学習を取り入れながら、指導と支援の工夫に努める。</p> <p>② ICTの活用、国語・算数におけるT・Tや少人数指導（習熟度別学習）等で「楽しくわかる授業」を推進していく。</p> <p>③ 「はっきり・じっくり・すっきり」の宇都宮モデルプランの考え方を授業の中に取り入れていく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 95.7%であり、指標を大きく上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・授業の展開を工夫するため、ICT機器を活用した資料を提示する。 ・3年生以上の少人数および習熟度別学習に工夫を加え、計画的に行う。</p>

<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。→教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① それぞれの専門性を生かしチーム学校で対応していく。具体的な協働の在り方を研修し、実践していく。</p> <p>② 校内の様々な職種の特性を生かして協力し、多角的な解決策を検討し取り組んでいく。</p>	B	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 88%であり、昨年度と比較すると 12 ポイント下回ったものの、指標については上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き専門性を有するスタッフと連携し、校内のニーズとつなげ、多角的な解決策が得られるように取り組んでいく ・情報共有を密にし、教職員が力を出し合い、より一層協力できるようにしていく。</p>
<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。→教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 行事・活動の起案時に目的を明確にした上で、昨年より一つ以上業務の効率化を意識した計画とする。</p> <p>② 個に対応した配慮を要する際に学校スタッフの活用により、教員の業務負担を軽減する。</p> <p>③ ミラタイムの出・退勤時刻管理を活用し、勤務時間を意識した働き方への意識改革を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 88%であり、昨年度と比較する 4 ポイント下回ったものの、指標については上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・行事や活動について、今年度の反省を基にさらに業務の効率化・簡素化を図る。 ・ミラタイムの出退勤時刻管理を活用し、勤務時間を意識した働き方に対する意識改革を促進する。</p>
<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」→児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 地域学校園であいさつ運動を定期的に実施することで中学生との交流を深める。</p> <p>② 学校便りやHPで、中学校からの乗り入れ授業について積極的に発信していく。また、乗り入れ授業時には、校内放送等で中学校職員の紹介をするなどして乗り入れ授業の実施について周知していく。</p>	B	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 64.8%であり、指標を大きく下回った。さらに昨年度との比較でも 26.8%下回った。今年度は新型コロナウイルス感染症防止対策の観点から活動が制限されたことも要因の一つと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 ・学校だよりの他、学校園図書だよりや学校園食育だよりを活用し、地域学校園での取組を周知していく。</p>
<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① P T A のふれあい祭り、学校菜園ボランティアによる農園・栽培活動等を積極的に支援する。</p> <p>② 保護者や地域の教育活動に関する要望には、教職員同士が協力し合い、迅速に対応する。</p> <p>③ 積極的に保護者や地域の活動に教職員が参加し情報を収集していく。</p>	B	<p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 89.9%、地域住民については 93.7%と両者とも指標を上回った。しかし、児童の肯定的回答は 79.6%と昨年より 6.3 ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・学校菜園ボランティアをはじめ、地域ボランティアの活動内容について、各種だよりに記載したり、校内放送で動画を流したりするなど児童へ積極的に周知する。</p>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。→保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① P T A ・安全パトロール隊（自治会）・地域の見守り活動と協力し、児童の登下校の安全に努める。</p> <p>② 企業・地域の施設や人材を活用した学習や体験活動の充実に努める。</p> <p>③ 地域学校園や地域協議会との連携を図り、出前授業等の教育活動を推進していく。</p>	B	<p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 89.9%、地域住民については 93.7%と両者とも指標を上回った。しかし、児童の肯定的回答は 79.6%と昨年より 6.3 ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、P T A や地域安全パトロールの方と連携して、児童の安全に努める。また、次年度も企業・地域の人材を活用した学習・体験活動の充実を図っていく。</p>
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。→保護者・地域住民肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 施設の設定備点検を実施し、必要のある場合には、補修・修繕を迅速に行う。普段の清掃では行き届かない個所の環境整備を計画的に行う。</p> <p>② 校内の空きスペースや掲示場所を有効に活用し、環境美化や情操教育に努める。</p>	B	<p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 93.9%、地域住民は 93.3%と指標を上回ったものの、地域住民については、昨年と比べ 6.7 ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・安全点検を中心に情報交換を密にして施設の安全管理に取り組む。 ・誰もが安心して学校を利用できるように、衛生面に配慮した環境を整える。</p>

	<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 教職員は、ICT機器や図書等を整備している。 →教職員の肯定的回答80%以上</p>	<p>① ICT機器や図書館等を活用した分かる授業を展開するため、設備の充実を図る。</p> <p>② ICT機器や図書等を活用して授業の改善を推進するため、設備の充実を図る。</p>	A	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は88%で指標を上回ったが、保護者は58.5%、児童は79.8%であり、教職員との差が大きかった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページや各種便りでICT機器を活用している学習活動の様子を積極的に家庭に発信する。また、授業参観でICT機器を活用した授業を行う。
本校の特色・課題等	<p>B2 進んで学び、自ら考え、判断し、主体的に行動することができる。</p> <p>【数値指標】 児童はチャイムをよく聞き、着席や次の時間の準備ができる→児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 「みんなでがんばる3つのめあて」や「よい子の一日」のきまりに基づいた生活を意識させる。</p> <p>② 生活目標の中に「学習」の項目を取り入れて、全校体制で取り組み、指導の徹底を図る。</p>	A	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は79.3%、保護者は66.9%であり、指標を下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活目標の中の「学習の項目」を6学年共通とし、引き続き徹底させる。 ・基本的な生活習慣と学習習慣を身に付けさせるため、全学年共通の習慣を明確にする。 ・児童が主体的に行動していることを保護者に知らせるため、毎月の学年だよりの工夫や懇談会での周知を徹底する。 ・児童が主体的に行動している様子を理解できる場の設定と、周知方法を工夫する。 ・児童が自ら考え行動する要素を取り入れた形の学校行事を設定する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<ul style="list-style-type: none"> ・ A10「ICT、図書等の活用」では、教職員の数値指標は上回っているが、保護者、児童は下回っていることから、保護者への周知、児童への効果的な活用が必要である。 ・ A9「宇都宮の良さ」では、教職員、保護者ともに60%未満であり、A12「持続可能な社会」では、教職員は50%未満であることから具体策が必要である。 ・ B1「読書」、B2「主体的行動」では、昨年度同様の結果であった。特に、B1は児童の数値指標を大きく下回っていることから具体策が必要である。 ・ 教職員において、A9「宇都宮の良さ」は昨年度より-4Pの56.0%、A12「持続可能な社会への関心」は昨年度より-2Pの48.0%であることから具体策が必要である。 ・ 教職員において、A12「持続可能な社会」では、教職員の数値指標が下回っていることから、持続可能な社会について児童に知らせる工夫が必要である。 ・ 保護者において、A14「いじめへの指導」では、保護者は昨年度より3.1P増加したものの数値指標は下回っていることから、保護者への啓発の工夫が必要である。 ・ 保護者において、A9「宇都宮の良さ」、A10「ICT、図書等の活用」、B1「本への親しみ」、B2「主体的な行動」の4項目（再掲1項目を含む）については60%未満であり、昨年度同様、かなり低い結果であった。 ・ 地域住民において、11評価項目（再掲2項目を含む）中、7項目（再掲1項目を含む）については100%、残りの4項目については90%以上であった。 ・ 児童において、A9「宇都宮の良さ」では60%台、A21「小中一貫教育・地域学校園」では、昨年度より16.8P減少していることから具体策が必要である。

7 学校関係者評価

○A3「きまりやマナー」

- ・ 登校時は班長を中心に整列してルールを守り登校しており、非常に良くなった。

○A4「あいさつ」

- ・ 先生方のあいさつ運動の定着に敬意を表す。特に、家庭・地域を含め、中学生と一体となったあいさつ習慣は自慢の種である。また、学校訪問の際は、児童はさわやかにきちんと挨拶してくれる。
- ・ あいさつは一生涯の、人間関係を築く上での第一歩となるのでその大切さを子供たちに分かってほしい。

○A9「宇都宮の良さ」

- ・ ボランティアや出前授業等の有効活用を図り、知ることや知らせる工夫が必要である。
- ・ 努力が必要である。
- ・ 他県から来た者にとっては大変良いところであり、もっと地元を愛してほしいと思う。
- ・ 将来、家族で宇都宮に住みたいと思ってもらえるよう、学校、家庭が積極的に教えるべきである。現在、子供たちがテレビで見る情報のほとんどは東京のことばかりである。A10、A25「ICT、図書等」をもっと活用して栃木や宇都宮の情報を子供たちに伝える必要がある。
- ・ 小学生には難しいと思う。まずは地区を絞り、雀宮地区のことから始めたほう有効である。
- ・ 宇都宮市ならではのもの（餃子、ブレックス、自転車など）について触れる機会を設けたりすることで、市に対する興味が出てくるのではないか。
- ・ 主な具体的な取組の説明が分かりにくいことも評価が低い要因ではないか。次年度の方針はよいと思うので、さらに、宇都宮の良さを伝えるパンフレット作製など取り組んでどうか。

○A10、A25「ICT活用」

- ・ 一手段であり、必要に応じた効果的な活用方法を探してほしい。

○A12「持続可能な社会」

- ・ SDGsに関しては先生より児童のほうが圧倒的に関心があり、先生方にももう少し関心をもってほしい。
- ・ 教職員の評価が低いのは、教職員の年齢層に関係していると思うので、教職員の意識改革が必要である。

○A14「いじめ」

- ・ 難しい問題ではあるが、単に「いじめが許されない行為であることを指導する」だけでなく、児童自身の気持ちを認めて受け入れることができるよう、そこから始める必要がある。

○A21「小中一貫教育・地域学校園」

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中学校との交流や行事が例年通りに行えないが、今後も状況を見ながら学校だより等で発信してほしい。

○A23「家庭・地域等との連携・協力」

- ・ 基本目標である「南の子」として教職員一丸となって取り組んでいる。また、家庭・地域との連携のもと、推進していることも評価できる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、道徳をはじめ各教科、体験活動、学校行事など学校の教育活動全体を通して、児童の気持ちに配慮しながら思いやりの心や親切心、いたわりの心などをもてるように指導の工夫をする。
- 持続可能な開発目標（SDGs）には“2030年までに達成すべき17の目標”があることを、発達の段階に応じて児童にはもちろんのこと、教職員も理解を含め、持続可能な社会について関心がもてるよう工夫する。
- 宇都宮市の伝統や文化、産業などについて体系的な教育を構築する「宇都宮学」の学習を実施することにより、郷土愛の醸成を図る工夫をする。また、教職員が宇都宮について興味・関心をもつとともに、児童の興味・関心が高まる指導の工夫をする。
- 新たに整備されたタブレットを有効活用できるような研修を実施するとともに、ICT活用の場面やタイミング、活用する上での創意工夫など、児童の学力向上に向けた効果的なICTの活用方法をさらに工夫する。
- 新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、小中一貫教育・地域学校園のさらなる推進や、学校・家庭・地域・企業等が連携・協力して教育効果の高い取組を工夫する。